

第41回中国・四国地区聾教育研究大会

香川大会

大会要項

期 日 令和5年12月7日（木）・8日（金）

会 場 香 川 県 立 聴 覚 支 援 学 校

目 次

会 長 あ い さ つ	・ ・ ・ ・ ・	1
香 川 県 教 育 委 員 会 祝 辞	・ ・ ・ ・ ・	2
1 大 会 概 要	・ ・ ・ ・ ・	3
2 公 開 ・ 指 定 授 業 一 覧 ・ 寄 宿 舎 公 開	・ ・ ・ ・ ・	5
3 開 会 式 ・ 記 念 講 演 ・ 閉 会 式	・ ・ ・ ・ ・	7
4 記 念 講 演	・ ・ ・ ・ ・	8
5 分 科 会 概 要 ・ 分 科 会 参 加 者 一 覧	・ ・ ・ ・ ・	9
6 来 賓 ・ 大 会 役 員 一 覧	・ ・ ・ ・ ・	19
7 会 場 案 内 図	・ ・ ・ ・ ・	20

挨拶

第41回中国・四国地区聾教育研究大会
会 長 川 井 博 樹
(愛媛県立松山聾学校長)

中国・四国の各地より多数の皆様をお迎えし、第41回中国・四国地区聾教育研究大会を12月7日・8日の2日間にわたり、ここ香川県立聴覚支援学校で開催できますことに、主催者を代表いたしまして心から感謝申し上げます。

さて、令和4年度から年次進行で実施されている「特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）」では、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善や障がいのある子どもたちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視することが求められています。また、令和3年1月に中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が出されました。そこには、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育をめぐる状況の変化に対応して、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校間での連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を着実に推進すること、そして、その学びの場の整備・連携の強化の一つとして、ICTを活用した新しい指導法の開発や施設整備の取組の推進などが示されています。

このような変革が学校に求められる中、主管校、香川県立聴覚支援学校では、この大会に向けて2年前から準備、研究実践を重ねてこられました。本大会は、「主体的・対話的で深い学びを通して、コミュニケーション力を育む」という大会主題の下に開催いたします。聞こえない、聞こえにくい子どもたちが、変化する社会の中で直面する様々な困難を克服し、主体的に生き生きと生活していくためには、基礎的・基本的な知識や技能、言語力、コミュニケーション力が必要不可欠です。また、近年、聾学校に在籍する幼児児童生徒の障がいが多様化しており、教員には、聴覚障がい児教育の専門性と同時に、個々の子どもへの理解と個に応じた丁寧で柔軟な指導・支援ができる力が必要となっています。このような現在の聾学校における課題の解決に向けた具体的な討議を進めるとともに、率直な意見交換を行うことにより、本大会が各学校の将来像を考えるいい機会になればと考えています。

結びに、貴重な教育実践を御報告していただきます会員の皆様、記念講演並びに授業研究会・分科会で御指導いただきます先生方に心より感謝申し上げますとともに、香川大会が御参会の皆様にとって、実り多きものとなりますことを祈念して挨拶とさせていただきます。

祝 辞

香川県教育委員会特別支援教育課

課 長 藤 田 明

皆さん、こんにちは。第 41 回中国・四国地区聾教育研究大会香川大会が開催されるに当たり、香川県教育委員会として、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日は、中国・四国各県から大勢の皆様方のご参加の下、本研究大会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。また、皆様方におかれましては、平素より聴覚障害児教育の充実、発展のために多大な御尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表します。

香川県教育委員会では、現在、「香川県教育基本計画」の基本理念である「郷土を愛し、夢と志を持って自ら学び歩み続ける人づくり」を実現するための具体的な教育施策の一つとして「特別支援教育の推進」を掲げ、障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導支援や乳幼児期から社会参加に至る切れ目のない支援体制の一層の充実、教職員の専門性の向上を目指して様々な取組を進めているところです。

本大会では、「主体的・対話的で深い学びを通して、コミュニケーション力を育む」という大会主題を掲げ、講演や分科会等をとおして交流を深められることと存じます。特別な支援を必要とする子どもたちが自立し、社会参加をするためには、子どもにかかわる人と人とが連携することや、子どもにとって必要な支援が「つながる」ことが大切です。本大会が、ご参集の皆様にとっても「つながる」場となり、聴覚障害児教育の充実や専門性の継承に向け、より一層連携を深めるきっかけとしていただくとともに、本大会の成果をそれぞれの地域において発信し、「つなげて」いただきますことを期待しております。

県外からお越しの皆様方には、この機会に、瀬戸内の島巡りなどを通して様々なアート作品や、豊かな自然、歴史・文化などに触れられるとともに、本場の讃岐うどんをはじめ、新鮮な海の幸やおいしい果物などをご賞味いただき、本県の魅力をご堪能いただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にご尽力いただきました、全ての関係者の方々に、心から感謝を申し上げますとともに、四国地区、中国地区、ろう教育研究会のますますのご発展と、皆様の一層のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。本日はおめでとうございました。

I 大会概要

大会主題 「主体的・対話的で深い学びを通して、コミュニケーション力を育む」

【設定理由】

聞こえない、聞こえにくい子どもたちが、変化する社会の中で直面する様々な困難を克服し、主体的に生き生きと生活していくためには、基礎的・基本的な知識や技能、言語力、コミュニケーション力が必要不可欠である。近年、幼児児童生徒の障害が重複化・多様化しており、聾学校の教員には、聴覚障害児教育の専門性と同時に、個々の子どもへの理解と個に応じた丁寧で柔軟な指導力が必要とされている。しかし一方で、教員の異動等により、専門性の維持や継承が大きな課題となっている。聾学校として担ってきた役割を再確認し、指導内容や指導方法の目的や意図を共通認識したうえで、子ども達一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させていかなければならない。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を目指すことが求められている。聴覚障害教育において、従前より追求してきた指導を改めて念頭におき、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っていくことで、子どもたちが将来、社会生活で必要となるコミュニケーション力の向上を目指したいと考え、本主題を設定した。

【大会日程】

期日	時間	内容	場所
12月7日 (木) 【大会1日目】	10:10～ 10:40～11:30	受付 【公開授業・寄宿舍公開】 ・幼稚部 ・小学部 ・中学部 ・高等部	正面玄関入り口 各教室
	11:30～12:30	昼食	食堂
	12:30～13:45	授業研究会	各教室
	13:45～14:00	移動	
	14:00～14:30	開会行事	体育館
	14:30～16:30	記念講演	体育館
	16:40～ 17:00～	PC動作チェック 研究協議分科会打合せ会	各教室
	18:30～	情報交換会	ホテルパールガーデン
12月8日 (金) 【大会2日目】	8:30～9:00	受付	正面玄関入り口
	9:00～11:30	分科会	各教室
	11:30～11:40	移動	
	11:40～12:00	閉会行事	体育館

Ⅱ 公開・指定授業一覧・寄宿舍公開

1 公開授業

(1) 幼稚部 [10:40 ~ 11:30]

学 級	活 動 名	指 導 者	場 所	部屋番号
4・5歳児 あか・みどり	おみせやさんごっこをしよう	玉野 比早代 鎮田 薫 渡辺 千種	みどり	北 館 110
4歳児 あかほし	えのぐであそぼう	大成 めぐみ 廣瀬 敦子 秋岡 竜成	あかほし	北 館 108

(2) 小学部 [10:40 ~ 11:30]

学 級	教科・領域	単 元 名	指 導 者	場 所	部屋番号
1年1組 2年1組 2年2組	図工	ことばのかたち	藤原 正子 長谷川 篤	1年教室	北 館 203
4年2組 6年2組	自立活動	おりがみでかざりを 作ろう	佐藤 明佳 林 アイミ	第2学習室	北 館 207

(3) 中学部 [10:40 ~ 11:30]

学 級	教科・領域	単 元 名	指 導 者	場 所	部屋番号
3年1組	英語	Unit6: Beyond Borders	藤井 亜紀	3年1組	北 館 307
1年2組 2年2組 3年2組	自立活動	オリジナルすごろくで 遊ぼう	秋和 慶子 松田 有香 牧谷 陽平	音楽室	北館

(4) 高等部 [10:40 ~ 11:30]

学 級	教科・領域	単 元 名	指 導 者	場 所	部屋番号
1年1組	論理・表現Ⅰ	不定詞の用法	葛西 良平	1組 HR 教室	南 館 205
2年1組	化学基礎	物質質量	福井 信恵	理科室	南 館 307
3年1組	総合的な 探究の時間	就労に向けて	佐々木 桂子	第6学習室	南 館 305
1年2組 2年2組 3年2組	生活単元学習	販売の練習をしよう	井口 真由美 山本 章弘 鈴木 直人	2組 HR 教室	南 館 203

(5) 寄宿舍 [10:40 ~ 11:30]

寄宿舍内見学	寄宿舍指導員が 随時、案内する	寄宿舍棟
--------	--------------------	------

2 指定研究授業 【指定研究授業VTR視聴：11月1日(水)～15日(水)】**(1) 幼稚部**

学 級	活 動 名	指 導 者	場 所	部屋番号
4歳児 あか	クイズごっこをしよう	河合 瞳	あか	北 館 108

(2) 小学部

学 級	教科・領域	単 元 名	指 導 者	場 所	部屋番号
4年2組 6年2組	自立活動	友達と話そう	池田 愛 池上 勝治 佐藤 明佳	4年教室	北 館 208

(3) 中学部

学 級	教科・領域	単 元 名	指 導 者	場 所	部屋番号
2年2組 3年2組	数学	文章問題にチャレンジ!	長尾 智子	2年2組	北 館 306

(4) 高等部

学 級	教科・領域	単 元 名	指 導 者	場 所	部屋番号
1年1組	数学A	第1章 場合の数と集合 第1節 場合の数 ⑥組合せ	植松 芳彦	洋裁室	南 館 303

Ⅲ 開会式・記念講演・閉会式

場所：体育館

進行：大会事務局長 福家 雅美

1 開会式

- | | | | |
|---|----------|--------------------------------------|-------|
| 1 | 開式の言葉 | 大会副実行委員長（香川県立聴覚支援学校教頭） | 西岡真由美 |
| 2 | 大会会長あいさつ | 大会会長
(四国地区聾教育研究会会長：愛媛県立松山聾学校長) | 川井 博樹 |
| 3 | 祝辞 | 香川県教育委員会事務局特別支援教育課長 | 藤田 明 |
| 4 | 来賓紹介 | 大会副会長
(四国地区聾教育研究会副会長：高知県立高知ろう学校長) | 山中 智子 |
| 5 | 閉式の言葉 | 大会副実行委員長（香川県立聴覚支援学校教頭） | 西岡真由美 |

2 記念講演

- | | | | |
|---|------|--|-------|
| 1 | 講師紹介 | 大会会長
(四国地区聾教育研究会会長：愛媛県立松山聾学校長) | 川井 博樹 |
| 2 | 講演 | <p>「対話のための日本語と手話」</p> <p>講師 金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 武居 渡 氏</p> | |
| 3 | 謝辞 | 大会副会長
(中国地区ろう教育研究会会長：広島県立呉南特別支援学校長) | 植田 圭 |

3 閉会式

- | | | | |
|---|-------------|-------------------------|-------|
| 1 | 開式の言葉 | 大会副実行委員長（香川県立聴覚支援学校教頭） | 西岡真由美 |
| 2 | 実行委員長あいさつ | 大会実行委員長（香川県立聴覚支援学校長） | 秋山 秀樹 |
| 3 | 次期開催校校長あいさつ | 次期開催校校長（広島県立広島南特別支援学校長） | 秋山 努 |
| 4 | 閉式の言葉 | 大会副実行委員長（香川県立聴覚支援学校教頭） | 西岡真由美 |

IV 記念講演

演題「対話のための日本語と手話」

金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授 武居 渡 氏

私はろう学校を卒業する子どもには、日本語と手話という 2 つの言語をしっかり身につけて卒業して行ってほしいと思っています。ただ 2 つは別の言語なので手話ができれば自動的に日本語の読み書きができるようになるわけではありません。一方で、獲得した手話を活用して日本語の読み書きの指導につなげられるとも思っています。

本講演では、聞こえない子どもたちにとって手話がどのような役割を果たすのかについて話をします。そのうえで、手話を活用した日本語の読み書き指導や手話による話し合い活動の工夫などについてもお話しできればと考えています。また、地方のろう学校では児童生徒数が減り、以前のように寄宿舎や部活など、放っておいても聞こえない同年齢集団の中で手話を自然に獲得するということが難しくなってきています。その中で、聞こえない子どもたちにどう手話を獲得してもらうのか、私の思いをお伝えしたいと思っています。

～メモ～

V 分科会概要・分科会参加者一覧

1 幼稚部教育

〈 会場：遊戯室 〉

テ ー マ	「やり取りを楽しむ子どもをめざして」
設 定 理 由	幼稚園教育では、遊びや活動を単なる体験に終わらせず、幼児自身が積極的に周囲に関われるような環境作りが発達には大切であるとしている。これまで本校幼稚部では、遊びや活動の中での教員のかかわり方や個に応じたコミュニケーション支援について実践をしてきた。今回は、主体性と環境に焦点を当て、幼児が自ら楽しくやりとりをする場となる掲示物等の環境作りを中心に、季節の行事などで使用する言葉についても継続して研究をする。
助 言 者	福島 朗博 氏 (社会福祉法人 十神 やすぎこども園長 前島根県立松江ろう学校長)
運営責任者	元谷 美保 (香川県立聴覚支援学校)
司 会	関 厚子 (広島県立呉南特別支援学校)
記 録	野口 明子 (鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校) 大成 めぐみ (香川県立聴覚支援学校)

発 表

◇やり取りを楽しむ子どもをめざして

香川県立聴覚支援学校

渡辺 千種

◇子どもが主役となる授業づくり

～「やってみたい」「伝えたい」思いを育む活動のあり方と教師の支援に着目して～

鳥取県立鳥取聾学校

舩田 和雅子

金澤 知衿

第 1 分科会参加者名簿

	所 属 名	職名等	氏 名	備考
1	社会福祉法人 十神 やすぎこども園	園長	福島 朗博	助言者
2	鳥取県立鳥取聾学校	教頭	原 康浩	
3	鳥取県立鳥取聾学校		舩田 和雅子	発表
4	鳥取県立鳥取聾学校		金澤 知衿	発表
5	鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校		野口 明子	記録
6	広島県立呉南特別支援学校		関 厚子	司会
7	愛媛県立松山聾学校		池田 芽生	
8	徳島県立徳島聴覚支援学校		佐藤 環	
9	山口県立山口南総合支援学校		渡邊 裕子	
10	観音寺こども園		佐治 聡美	1 日目のみ 参加
11	観音寺こども園		西山 奈津子	
12	香川県立聴覚支援学校	幼主事	元谷 美保	運営責任者
13	香川県立聴覚支援学校		秋岡 竜成	
14	香川県立聴覚支援学校		玉野 比早代	
15	香川県立聴覚支援学校		大成 めぐみ	記録
16	香川県立聴覚支援学校		渡辺 千種	発表
17	香川県立聴覚支援学校		河合 瞳	
18	香川県立聴覚支援学校		鎮田 薫	
19	香川県立聴覚支援学校		廣瀬 敦子	
20	香川県立聴覚支援学校		野口 由美	

2 小学部教育

〈 会場：会議室 〉

テ ー マ	「言語力を高め対話を楽しむ子どもをめざして」
設 定 理 由	新学習指導要領では、「子供たちの生きる力をはぐくむことが大切であり、教科学習で学んだことを生かした主体的・対話的な学びを目指す」と示されている。これまで本校の小学部では、集団を確保するために縦割りの小グループを作り、児童の言語力の向上を目指してきた。今回は、これまで取り組んできた言語力を高める指導を継続するとともに、子どもたちがお互いに思いや考えを伝えるために、対話を大切にした環境作りや授業について研究する。
助 言 者	武居 渡 氏 (金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授)
運営責任者	中川 寛 (香川県立聴覚支援学校)
司 会	和田 佳奈美 (広島県立尾道特別支援学校)
記 録	門田 啓子 (徳島県立徳島聴覚支援学校) 長谷川 篤 (香川県立聴覚支援学校)

発 表

◇言語力を高め対話を楽しむ子どもをめざして

香川県立聴覚支援学校

林 アイミ

◇聴覚障害児の思考力を育てる授業づくりについて

広島県立広島南特別支援学校

濱村 美香

第2分科会参加者名簿

	所 属 名	職名等	氏 名	備考
1	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系	教授	武居 渡	助言者
2	鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校		西村 恵美	
3	島根県立松江ろう学校		菖蒲 奈津美	
4	広島県立広島南特別支援学校	校長	秋山 努	大会副会長
5	広島県立広島南特別支援学校		濱村 美香	発表
6	広島県立呉南特別支援学校		松島 かおり	
7	広島県立尾道特別支援学校		和田 佳奈美	司会
8	愛媛県立松山聾学校		片上 大祐	
9	愛媛県立宇和特別支援学校（聴覚障がい部門）		梶谷 由佳	
10	徳島県立徳島聴覚支援学校		門田 啓子	記録
11	徳島県立徳島聴覚支援学校		梶原 健太	
12	高知県立高知ろう学校		小松 賀恵	
13	山口県立山口南総合支援学校		中村 友紀	
14	坂出市立林田小学校		東条 早織	一日目のみ 参加
15	香川県立聴覚支援学校	小主事	中川 寛	運営責任者
16	香川県立聴覚支援学校		福家 雅美	
17	香川県立聴覚支援学校		丹下 英之	
18	香川県立聴覚支援学校		池上 勝治	
19	香川県立聴覚支援学校		林 アイミ	発表
20	香川県立聴覚支援学校		池田 愛	
21	香川県立聴覚支援学校		佐藤 明佳	
22	香川県立聴覚支援学校		長谷川 篤	記録
23	香川県立聴覚支援学校		藤原 正子	

3 中学部教育

〈 会場：視聴覚室 〉

テ ー マ	「生徒一人一人の実態に応じた言語力の向上をめざして」
設 定 理 由	言語力はコミュニケーションや学習活動の基盤であり、新学習指導要領においても、「言語活動の充実」は引き続き重要なキーワードである。中学部では、聞こえやコミュニケーションモードの違い、発達段階等を考慮した個々の実態を丁寧に把握し、中学部の全教員が各生徒の課題と目標を共通認識する。それをもとに各教科・領域等の連携を図り、生徒一人一人のコミュニケーションを豊かにするための、言語力向上の環境作りと指導方法について研究する。
助 言 者	脇中 起余子 氏 （筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授）
運営責任者	中條 拓也 （香川県立聴覚支援学校）
司 会	金並 正教 （愛媛県立松山聾学校）
記 録	阿部 久美 （愛媛県立宇和特別支援学校） 松田 有香 （香川県立聴覚支援学校）

発 表

◇生徒一人一人の実態に応じた言語力の向上をめざして

香川県立聴覚支援学校

横山 奈津

◇主体的・対話的に活動し学びを深める授業づくり

～協働的な学びの設定を通して～

島根県立松江ろう学校

手銭 真由美

第3分科会参加者名簿

	所 属 名	職名等	氏 名	備考
1	筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター	准教授	脇中 起余子	助言者
2	島根県立松江ろう学校		手銭 真由美	発表
3	広島県立広島南特別支援学校		宮崎 裕伸	
4	広島県立呉南特別支援学校	部主事	本田 博志	
5	広島県立尾道特別支援学校	校長	田中 貴美	
6	愛媛県立松山聾学校		金並 正教	司会
7	愛媛県立宇和特別支援学校（聴覚障がい部門）		阿部 久美	記録
8	徳島県立徳島聴覚支援学校		小森 美幸	
9	山口県立山口南総合支援学校		鍛冶 貴博	
10	島根県立浜田ろう学校		門脇 真理子	
11	高松市立協和中学校		藤澤 正憲	
12	高松市立木太中学校		金谷 千絵	
13	香川県立聴覚支援学校	中主事	中條 拓也	運営責任者
14	香川県立聴覚支援学校		藤井 亜紀	
15	香川県立聴覚支援学校		福家 英樹	
16	香川県立聴覚支援学校		高田 江美子	
17	香川県立聴覚支援学校		長尾 智子	
18	香川県立聴覚支援学校		横山 奈津	発表
19	香川県立聴覚支援学校		秋和 慶子	
20	香川県立聴覚支援学校		牧谷 陽平	
21	香川県立聴覚支援学校		松田 有香	記録
22	香川県立聴覚支援学校		南野 安華音	

4 高等部教育

〈 会場：寄宿舍会議室 〉

テ ー マ	「相手と通じ合うための力を伸ばし、社会で活かせるコミュニケーション力の向上をめざして」
設 定 理 由	新学習指導要領では生徒が自ら学び、実際の社会や生活で対応できる知識及び技能を身に付けることが目標に述べられている。高等部では生徒一人一人の発達段階や希望する進路を踏まえ、個に応じた課題を設定している。また対話的な学習を行い、生徒同士の話し合い活動や、校外での活動の中で社会で活かせるコミュニケーションについて学ぶ機会を多く設定している。実践的な場を通し、社会で相手と通じ合うための力を伸ばすための指導・支援の在り方について研究する。
助 言 者	橋本 一郎 氏 (亜細亜大学 経営学部 経営学科 特任准教授)
運営責任者	岡本 美穂 (香川県立聴覚支援学校)
司 会	多々納 裕美 (島根県立浜田ろう学校)
記 録	西野 直人 (山口県立山口南総合支援学校) 井口 真由美 (香川県立聴覚支援学校)

発 表

◇相手と通じ合うための力を伸ばし、

社会で活かせるコミュニケーションの力の向上をめざして

香川県立聴覚支援学校

木村 志保

◇社会で活かせるコミュニケーション能力を育てる取組

徳島県立徳島聴覚支援学校

杉本 和美

板東 朋昭

第4分科会参加者名簿

	所 属 名	職名等	氏 名	備考
1	亜細亜大学 経営学部 経営学科	特任准教授	橋本 一郎	助言者
2	鳥取県立鳥取聾学校	主幹教諭	中井 暁子	
3	広島県立呉南特別支援学校	校長	植田 圭	大会副会長
4	愛媛県立松山聾学校		木原 はるか	
5	愛媛県立宇和特別支援学校（聴覚障がい部門）		曾根 一輝	
6	徳島県立徳島聴覚支援学校	校長	小谷 慎一	
7	徳島県立徳島聴覚支援学校	教頭	中山 育美	
8	徳島県立徳島聴覚支援学校		板東 朋昭	発表
9	徳島県立徳島聴覚支援学校		杉本 和美	発表
10	高知県立高知ろう学校		大代 有希	
11	山口県立山口南総合支援学校		西野 直人	記録
12	山口県立山口南総合支援学校		鴻池 雅子	
13	島根県立浜田ろう学校		多々納 裕美	司会
14	香川県立聴覚支援学校	高主事	岡本 美穂	運営責任者
15	香川県立聴覚支援学校		佐々木 桂子	
16	香川県立聴覚支援学校		植松 芳彦	
17	香川県立聴覚支援学校		井口 真由美	記録
18	香川県立聴覚支援学校		山本 章弘	
19	香川県立聴覚支援学校		佐藤 直人	
20	香川県立聴覚支援学校		福井 信恵	
21	香川県立聴覚支援学校		西村 望	
22	香川県立聴覚支援学校		葛西 良平	
23	香川県立聴覚支援学校		木村 志保	発表
24	香川県立聴覚支援学校		鈴木 直人	
25	香川県立聴覚支援学校		永木 仁美	

5 寄宿舎教育

〈 会場：多目的室 〉

テ ー マ	「豊かなコミュニケーションの育成をめざして」
設 定 理 由	寄宿舎では異年齢での生活環境の中で自主性・協調性・責任感を養い、生活場面に応じた言語力の向上と自立心の育成を目標としている。子ども一人一人の実態に応じて、卒業後の進路を見据え、言語力や豊かなコミュニケーション力の向上を目指した課題を設定している。自治活動を通して、集団や社会の一員としてより良い人間関係を築く力を養うための環境作りや支援の在り方について研究する。
助 言 者	西山 香 氏 (香川県立香川中部支援学校 教頭)
運営責任者	稲葉 敬子 (香川県立聴覚支援学校)
司 会	山岡 あゆみ (高知県立高知ろう学校)
記 録	近藤 志瑞佳 (愛媛県立松山聾学校) 竹田 美穂 (香川県立聴覚支援学校)

発 表

◇豊かなコミュニケーションの育成をめざして

香川県立聴覚支援学校

猪池 豊

◇舎生の主体性を育むために

～一人一人が主体的に取り組む舎生会活動を目指して～

岡山県立岡山聾学校

藤谷 倫子

第5分科会参加者名簿

	所 属 名	職名等	氏 名	備考
1	香川県立香川中部支援学校	教頭	西山 香	助言者
2	岡山県立岡山聾学校		藤谷 倫子	発表
3	愛媛県立松山聾学校	主任寄宿舎指導員	近藤 志瑞佳	記録
4	徳島県立徳島聴覚支援学校	主任寄宿舎指導員	久次米まゆ美	
5	高知県立高知ろう学校		山岡 あゆみ	司会
6	山口県立山口南総合支援学校		末富 康恵	
7	香川県立聴覚支援学校	寄宿舎指導員長	稲葉 敬子	運営責任者
8	香川県立聴覚支援学校	主任寄宿舎指導員	日下 晃子	
9	香川県立聴覚支援学校	主任寄宿舎指導員	宮脇 恭子	
10	香川県立聴覚支援学校		杖池 知史	
11	香川県立聴覚支援学校		竹田 美穂	記録
12	香川県立聴覚支援学校		猪池 豊	発表
13	香川県立聴覚支援学校		井口 夏帆	
14	香川県立聴覚支援学校		西口 綾乃	
15	香川県立聴覚支援学校		安藤 千里	
16	香川県立聴覚支援学校		銭谷 颯士	

VI 来賓及び大会役員名簿

来賓

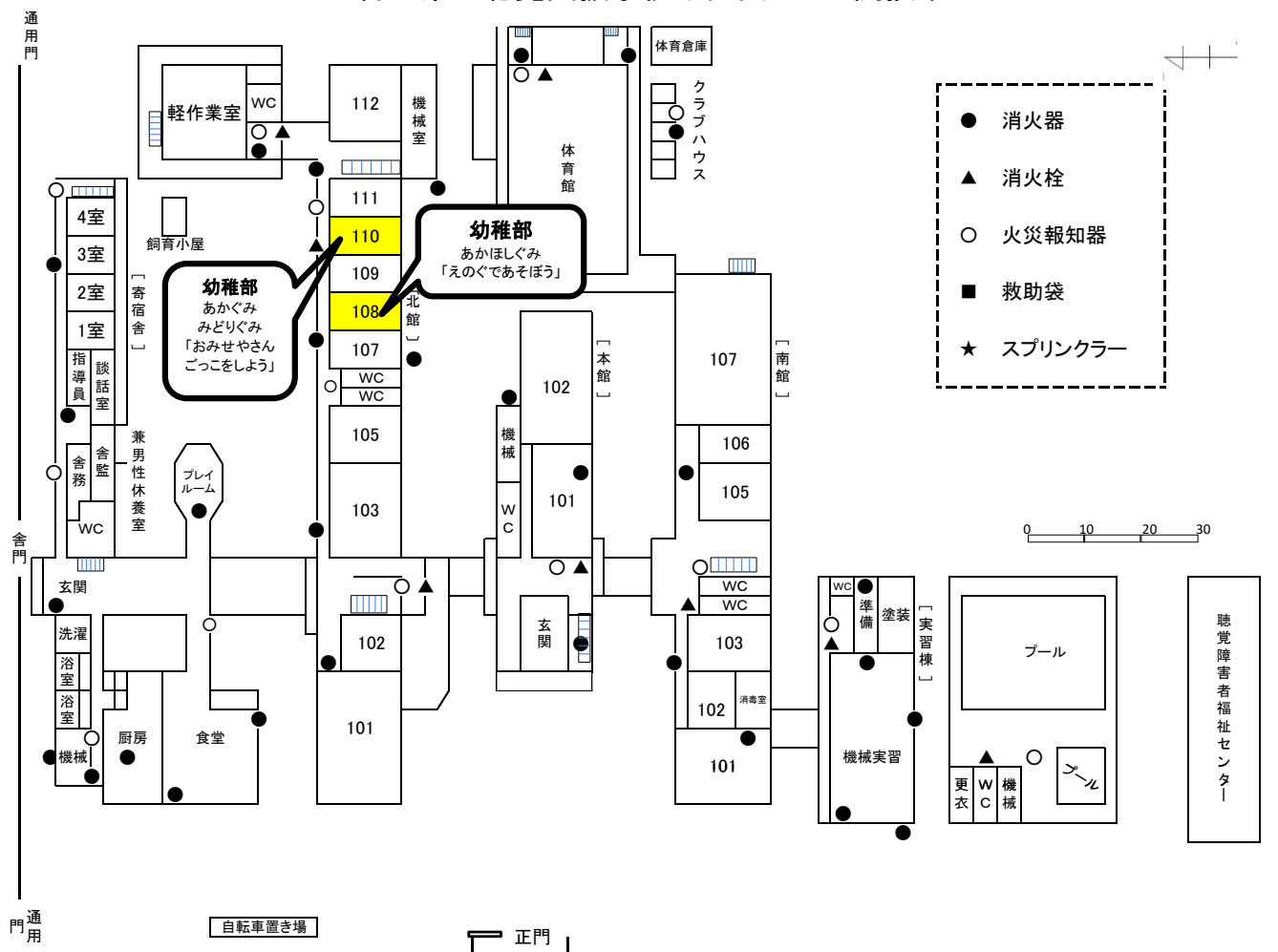
氏 名	役 職 名
藤田 明 様	香川県教育委員会事務局 特別支援教育課長
廣瀬 尚子 様	香川県特別支援学校校長会 会長

大会役員

役職名	氏 名	所 属
大会会長	川井 博樹	愛媛県立松山聾学校長（四国地区聾教育研究会会長）
大会副会長	植田 圭	広島県立呉南特別支援学校長（中国地区ろう教育研究会会長）
大会副会長	山中 智子	高知県立高知ろう学校長（四国地区聾教育研究会副会長）
大会副会長	矢野 和孝	愛媛県立松山聾学校教頭（四国地区聾教育研究会副会長）
大会副会長	秋山 努	広島県立広島南特別支援学校長（次期開催校校長）
監事	臼杵 延枝	香川県立聴覚支援学校事務部長
監事	坂本 美由紀	愛媛県立松山聾学校事務長
大会実行委員長	秋山 秀樹	香川県立聴覚支援学校長（主管校校長）
大会副実行委員長	西岡 真由美	香川県立聴覚支援学校教頭（主管校教頭）
大会事務局長	福家 雅美	香川県立聴覚支援学校教諭（主管校代表）
大会事務局員	池田 芽生	愛媛県立松山聾学校教諭（開催地区事務局長）
大会事務局員	梶谷 由佳	愛媛県立宇和特別支援学校教諭（開催地区理事）
大会事務局員	武市 恵子	徳島県立徳島聴覚支援学校教諭（開催地区理事）
大会事務局員	小松 賀恵	高知県立高知ろう学校教諭（開催地区理事）
大会事務局員	松島 かおり	広島県立呉南特別支援学校教諭（非開催地区事務局長）
大会事務局員	横山 奈津	香川県立聴覚支援学校教諭（主管校代表）
大会事務局員	元谷 美保	香川県立聴覚支援学校幼稚部主事（主管校代表）
大会事務局員	中川 寛	香川県立聴覚支援学校小学部主事（主管校代表）
大会事務局員	中條 拓也	香川県立聴覚支援学校中学部主事（主管校代表）
大会事務局員	岡本 美穂	香川県立聴覚支援学校高等部主事（主管校代表）
大会事務局員	稲葉 敬子	香川県立聴覚支援学校寄宿舎指導員長（主管校代表）

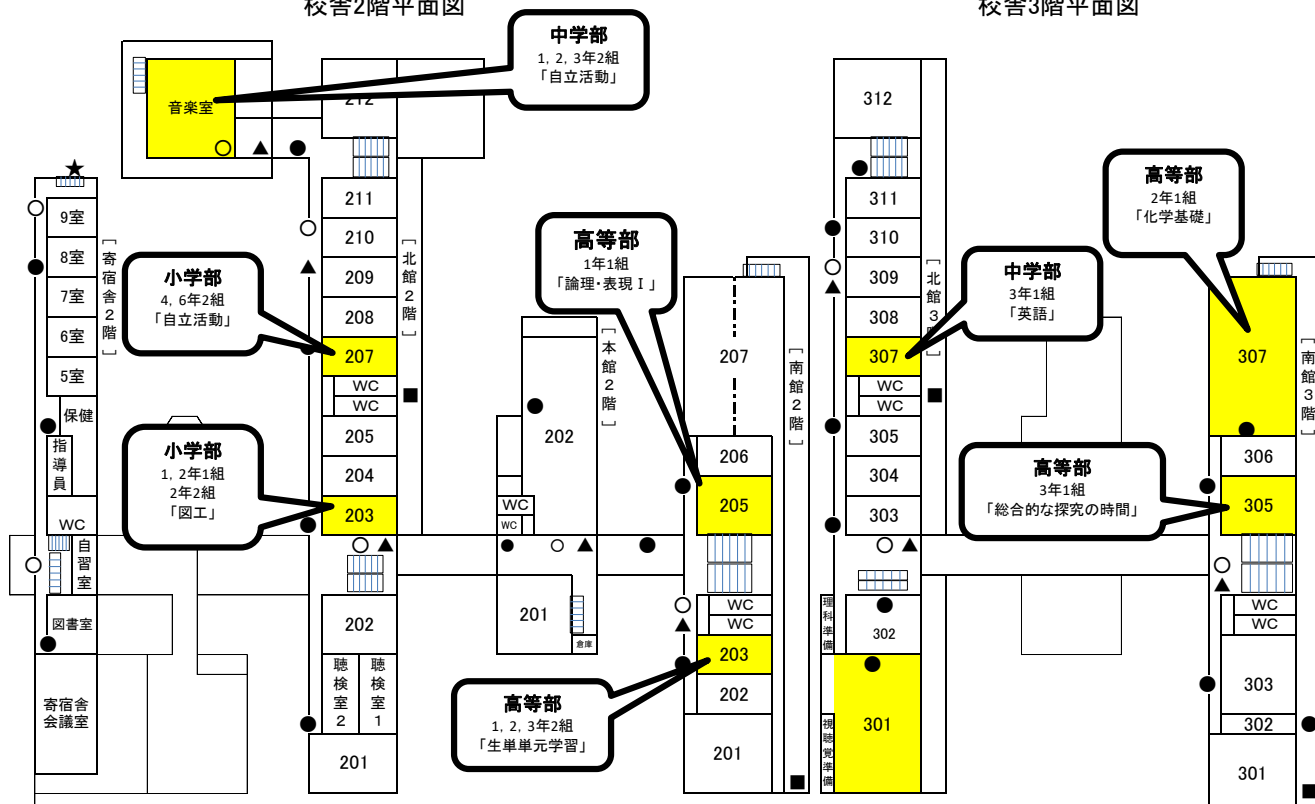
香川県立聴覚支援学校平面図

公開授業

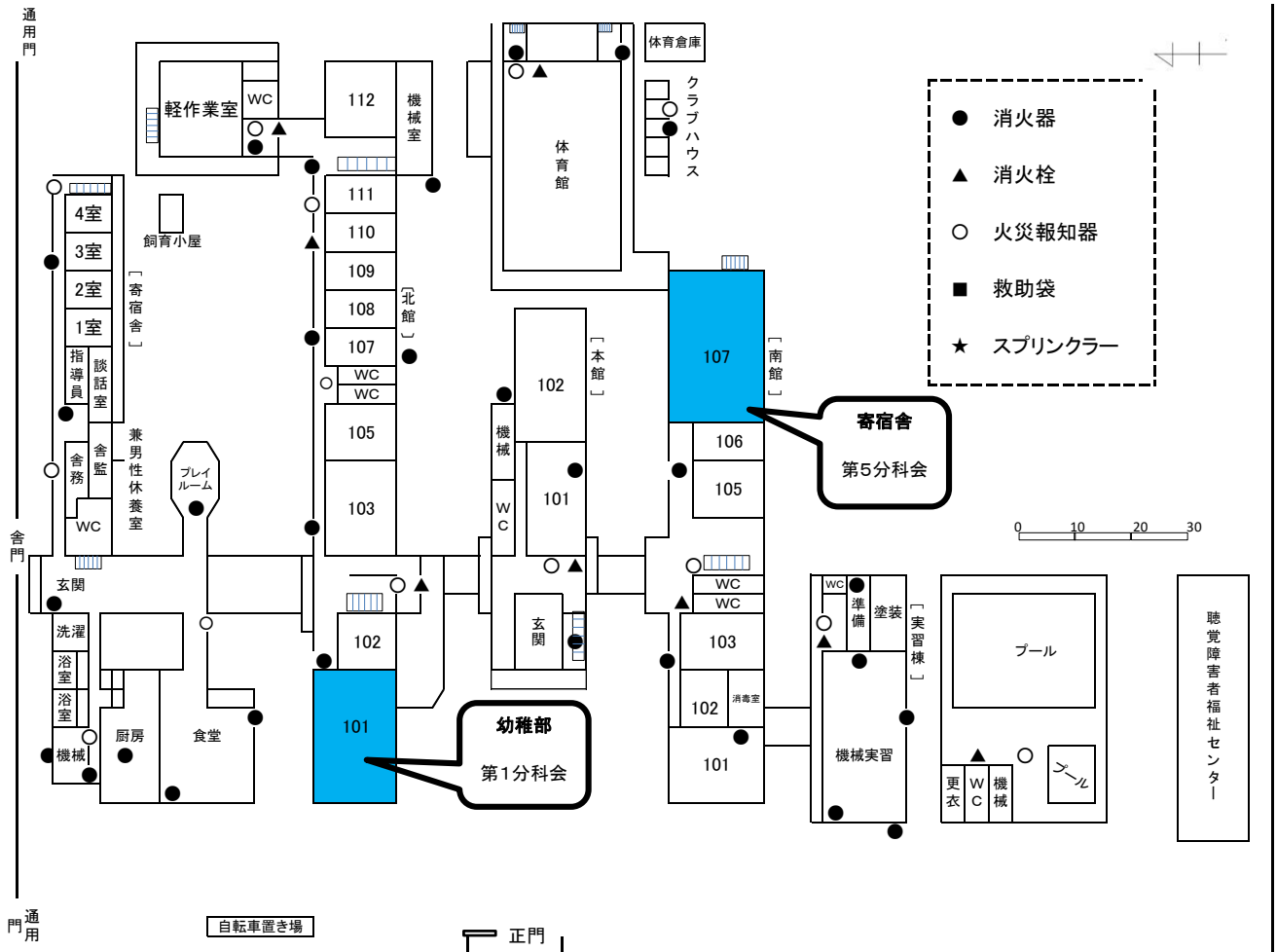


校舎2階平面図

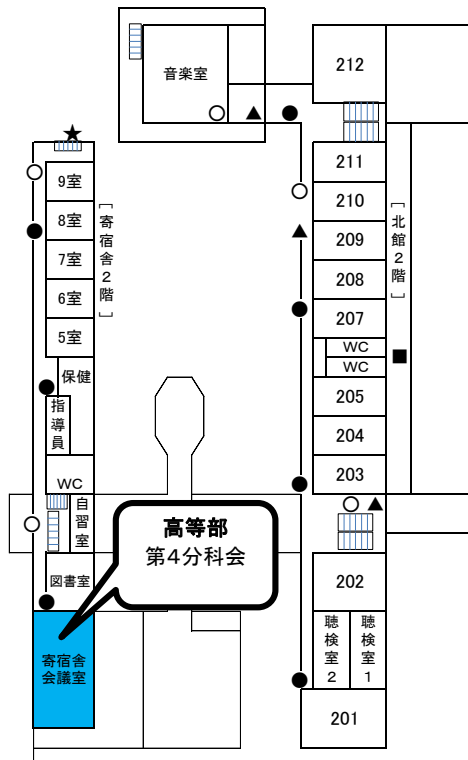
校舎3階平面図



香川県立聴覚支援学校平面図 分科会



校舎2階平面図



校舎3階平面図

